

1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成24年4月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073300313		
法人名	株式会社 太平洋		
事業所名	グループホーム ファミリー		
所在地	福岡県宗像市平井1丁目19-1		
自己評価作成日	平成24年4月1日	評価結果市町村受理日	平成24年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成24年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

23年度より強化した個別支援は6月度に地域店舗と協力をし店内ショッピングや喫茶でのお茶会を実施する事が出来ました、ほぼ全員の職員が1ヶ月をかけ計画実行できたことはご利用者の喜びと同時に職員の喜びも味わえるほどの経験となり、更には外出で得た会話の中からケアプランに発展する方向性も得られました。7月以降は、職員が計画実施して積極的に個別支援を強化する事ができました。また各居室内に23年度思い出写真集をつくらうと職員から提案があり、受け持ち担当がそれぞれのアイデアと入居者さんの思い出など写真、イラストなどを使って作成いたしました、ご家族面会時には「いろんな所に出かけてるね」「楽しい生活してるんだね」などのコミュニケーションツールとして活用してご家族との会話を職員全員ができるような環境になりました。今回のことで職員の協調性がより高くなりました、ご利用者、ご家族の喜びの声を多く聞けるようになったことが自信となっています。今後も個別支援強化に取組み「いつでも笑顔」の堪えないホームにしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームファミリー”は、22年から管理者を中心に新たなチームワークを作ってこられた。その成果は年々目に見える形となり、家族や来訪者からも“明るくなった”と言う良い評価を頂いた。入居者個別の外出にも力を注ぎ、買い物や外食などを楽しまれ、「パンが大好き」と言う方にはパン屋で焼きたてのパンを食べて頂いたり、絵画に興味がある方には美術絵画展にお連れした。ご本人の笑顔が溢れる機会となり、職員も嬉しく思った。家族の面会も3倍になり、行事に参加して下さる家族も多くなった。家族との記念写真を撮る機会も増え、家族と一緒に外出される時はホームのカメラをお渡しし、家族に写真を撮って来て頂く事もある。その写真は担当職員が趣向を凝らし、居室の壁に愛情いっぱい飾られている。“思い出”が日に日に増えていく壁の飾りに、家族の喜びも大きなものとなっている。開設以来、ホームをマネジメントしてきた統括やサブマネージャーもホーム全体の変化を感じており、「今は安心してます」と言うお言葉を聞く事ができた。職員の離職も無く、チームワークも強くなり、職員個々の力が発揮できており、まさにホーム全体が“ファミリー”と言う温かさを感じる事ができるホームであった。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールとリビング、各スタッフルームに理念を掲示して職員がいつでも見れるようにしている、毎日の申し送り時には理念を基本にした支援方法話しあっている。	職員の離職も無く、馴染みの職員が増えた事で、個別支援を増やす事ができた。担当者個々の能力も発揮でき、家族との会話も増えた事もあり、家族の面会や行事参加も増えてきた。理念にある“心のふれあいを大切に” “家族”でありたいの実践が日々行われており、今後は、家族と一緒に写真を増やしていく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域公民館内に植えられている桜を利用した花見外出や盆踊りなど、公民館の利用が多くなり地域の方の語りかけやお子様達との交流が増え始めた。	地域の行事に参加する事を大切にされてきた。地域の夏祭りや花見に行った時には、場所の確保をして下さる関係になり、ホーム主催の夏祭りや秋の音楽祭等に、地域の琴教室の方が演奏に来て下さっている。健康福祉委員ができた事で、地域の行事や介護状況を伺い、お互いにアドバイスができる環境にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内の在宅で介護をされているご家族の方からの見学や訪問が増え相談や悩みを受け傾聴し共感を得る事で事業所としての地域の方々への貢献と考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域住民代表として平井区民生委員、新たに健康福祉委員、市職員の参加で2ヶ月に1度実施している。事業所の運営状況や入居者の様子を伝え地域行事への参加や家庭介護の状況、行政から他事業所の情報などの意見をサービスの向上に活かしている	会議では状況報告や行事報告等を行い、宗像市の方から災害等の対応や協力体制の意見を頂き、消防団の紹介もして頂いた。家族からも「ホーム全体や入居者の方々が明るくなっている」と言って下さり、職員も嬉しく思っている。健康福祉委員からは行事日程を、民生委員からは地域情報等を頂き、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サブマネジャーは市の担当者に運営推進会議のあり方を相談している。認知症ケアのことについてアドバイスを頂いたり、ホームの現状を報告するなど、日頃から市の窓口を訪れたり、運営推進会議を通じて密に連絡をとりあっている。	管理者は、行政主導の地域密着事業所の意見交換の場の“地域密着ネットむなかた”に出席している。23年度は管理者が会長を務め、市の方や他事業所と密に連携を行う機会が増えた。市の介護保険課の要請で「地域包括ケアについての意見交換会」に出席し、意見を延べる機会も頂いた。市の担当者とは随時、意見交換を行う事ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者を含み4名の職員が認知症実践研修にて身体拘束の研修を受けてます。更にミーティングを通じ他職員全員に教育、報告にて周知徹底しています。玄関の施錠につきましても、毎朝30分の入居者様と清掃の時間に開放し、毎日曜日の午後レクで1時間は開放している。個別支援として外出行事を毎月実施している。	玄関前の交通量が多く玄関を施錠している事を、家族や地区役員等に理解して頂いているが、「外に出たい」と願う入居者の方もおられる。職員は開放感溢れる暮らしを大切に、時間を決めて玄関の開放をしている。今後は自力で開閉できる時間を増やす取り組みも予定しており、言動も含め“身体拘束0”の実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は虐待防止研修を受けている、さらに全員が周知徹底できる様に申し送りやミーティング時に意識付けをしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者1名が成年後見人制度を活用をされておられる、管理者が研修に参加して勉強しておりホーム内にも資料を常設していつでも閲覧できるようにしている。勉強会を通じて理解を深める取組もおこなっており、後見人の面会時や担当者会議等にて情報交換を実施している。	24年3月末、市が主催した研修に6名の職員が参加し、弁護士から制度に関する講義を受ける事ができた。統括やサブマネージャーを中心に、それぞれの家族状況等にも考慮しながら、制度の利用の必要性を個別に検討している。管理者も含めて、後見人の方や市役所の保護課の方との話し合いを密に続けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に締結、解約又は改定等は説明を行いご家族の不安、疑問点などは契約時点でお答え対応している、その後については電話にて解決回答できるように取り組んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は日勤中心の勤務となり面会時にはご意見、ご要望を受けサブマネージャーへの相談のうえ支援に反映させると共に意見、苦情等は運営推進会議での議題として取り上げ助言を頂き改善できる仕組み作りあげている。	家族の要望も増えており、「行事の日時をもう少し早くお知らせしてほしい」との事で、ホールの壁に年間予定を掲示すると共に、1.5ヶ月前には案内書を郵送している。23年は行事に参加して下さる家族が増え、家族の面会も3倍に増えている。管理者のキターコンサートを楽しみにされている家族の方も着実に増えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の仕事の中で職員の意見、提案を聞きミーティング等を通じ議題としてあげ、合議制にて改善できる仕組みを作り上げている。	職員からの提案が増えると共に、責任を持って行事企画や運営を行う姿が見られている。職員から個別の外出行事の意見が多くあがり、23年度は個別支援の強化が行われている。夜勤業務の見直しについても、チェックリストで業務の流れの改善が行われた。今後も更なるレベルアップのために、外部研修の参加を増やす予定である	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等により給与水準の見直しや正職員への登用等を行っている。又資格取得については受験対策や資格取得に向けた勧奨を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集・採用にあたって、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、最初から採用対象から外すことはしていない。個人の能力を見極め業務量の配慮をしているパソコンが得意な方にはファミリー通信を作って頂いたり、裁縫が得意な方、タンボールを使って小物を作るのが得意な方、ギターによるコンサート実施など、得意分野を把握し、力を發揮して頂いている。資格取得の資料等も準備し指導する等職員のキャリアアップにも支援を行っている。	職員の離職はなく、料理や飾り付け等、職員個々の力が発揮されている。統括、サブマネージャーとも連携しながら、管理者中心に更なるチームワークが作られている。系列施設での研修も行われ、系列施設の規模の大きさもあり、職員の視野を広げる機会にもなっている。幹部からの指導もあり、質の向上に向けた取り組みをしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	サブマネージャー、管理者が人権尊重の大切さを職員に伝えている。内部研修への参加も検討しておりミーティングの時間に個別の具体例を挙げて、人権を尊重することを職員全員で話し合っている。倫理についての研修も行った。	統括は自立支援を大切にしており、介護を行う前に、ご本人の意思確認をするよう職員に伝えている。管理者も、ご本人の言葉を大切に受容し、待つケアを実践するように伝え、ご本人のペースに合わせた生活が送られている。年2回行われている人権の外部研修に職員が参加し、伝達研修も行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマに合わせて本人の希望や能力を勘案した研修会の案内を行っている、参加希望者には研修日程に合わせた勤務形態をとっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は21年度より「地域密着ネットむなかた」の行政主導の地域密着事業所の意見交換会に参加して勉強会、相互訪問、情報交換会、研究発表など活動をしてきた。今年度も引き続き活動しサービスの向上に取り組んでいる。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接の中で本人・家族の意向を聞き取り、センター方式に基づくアセスメント用紙を活用しご本人の思いや不安・要望等の把握に努めている。意思疎通の困難な方の思いが難しく、日々関わることで信頼関係を築き、安心して生活できる支援内容を職員全員が共有するようになっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に担当者会議をサブマネジャー、ケアマネジャー、管理者、看護師とご家族で開催している その中でご家族の要望、不安を確認して今後のケアプランに活かし職員全員の共有のなかで支援できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集によりご本人・ご家族の状況を見極め、入所時の送迎、荷物家財の搬入や処分等も含め施設でお手伝いできる点を確認し対応している、又身体状況や精神状況により環境整備や居室の移動、医療機関との連絡、早期受診を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時に担当者会議をサブマネジャー、ケアマネジャー、管理者、看護師とご家族で開催している その中でご家族の要望、不安を確認して今後のケアプランに活かし職員全員の共有のなかで支援できるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望に出来る限り答えられる様に、外出行事や施設内行事に家族会を通じて参加を依頼して共に楽しめる環境をつくり、本人と家族と職員の絆が深まるように努力している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	学校の先生をされていた頃の生徒さんが面会に来られ再度面会に来ていただくようお願いをしました。	家族にアルバムを持参頂き、馴染みの人や場所の把握に努め、病院等の帰りに、ご本人から馴染みのお店等を教えて頂いている。家族が遠方の方には、バーステイクや年賀状を送って頂けるようお願いしたり、入所されている家族に会いに行き、喜んで頂いた。家族と一緒にお墓参りや自宅の仏壇参りにも行かれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時からの朝リハビリ体操は全員がリビングにて参加され全員が顔を見渡せる環境で実施されています。午後のレクリエーションについては2階ユニットの方のみ参加に対し火・木・土は全員参加のグループワークに変更し利用者同士の関わる時間を増やしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に何時でも相談に応じる事をご家族へ約束しています。また入所時の写真をアルバムにしてお渡し施設生活を思い出していただく取り組みをしています。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式に基づくアセスメント用紙を活用しご本人の思いや意向の把握に努めている。特に意思疎通の困難な方たちの思いの把握が難しく、職員同士で把握できている。内容や量にも差があるため、ミーティングの場を活用し、職員全員で共有できるようにしている。	ご本人が喜ぶ事を常に意識し、思いの把握に努めている。家族にも担当職員が積極的に生活歴や趣味等を伺っている。センター方式には複数の職員がペンの色を変えて記録し、着実に情報が増えている。意思疎通が困難な方も、毎日の出来事を記録に残し、できるだけゆっくりと会話する機会を増やしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークや退院時のカンファレンスで生活歴、馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等把握している、又 その後の面会時に不足している内容を全職員で共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートのD1、D2シートを活用し本人の心身の状態を把握している。記入は計画担当だけではなく、受け持ち担当の職員や変化があったときの職員がそれぞれに記入し全員参加型にしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用して計画作成担当者が中心となりご本人・ご家族の意向を確認しケアマネジャーがプランの原案を作成している。なるべく本人が出来ることを主体にするように努めているが一部課題・目標がスタッフの視点で作成されているものもある。ようやく人員も安定期に入り、アセスメントを強化してご本人様本位のプランを作成していきたいと考えている。	ご本人と家族の意向を大切に計画が作られている。「パンが大好きで食べさせてあげたい」と言う家族の希望で、パン屋に協力を頂き、焼きたてのパンを食べられた。「よく踊っていた」と言う方には、家族にお願いして昔着ていた着物を用意頂き、計画に「踊りの披露」を盛り込まれたり、日々の役割や外出も盛り込まれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく把握出来るように、ユニット毎の記録から個別に細分化した記録方法に変更しました。その結果アセスメントも細分化でき介護計画の見直しに役に立っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別支援の強化によりご利用者、職員の表情も明るくなった為か、ご家族の面会頻度も多くなり家族と話が出来る状況が増えたため、意向や要望を出来る限りサービスに反映できる様に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区公民館で開催される、夏祭り、盆踊りへの参加、コミュニティセンターで行われている行事に参加、地域のスーパーへ買物同伴など支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の意向を伺い、協力医療機関以外でもかかりつけ医を希望される場合、受診支援をしている。	受診は看護師や職員、家族が行っている。家族には電話で報告し、後日面会時にも詳細に報告している。定期的な往診もあり、必要に応じて専門医への紹介も頂けている。カンファレンスなどに、看護師の指導で医療面の勉強を続けており、体調変化の観察も深まり、昼間の間に、早期発見・早期治療に繋げる事ができている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は身体的及び精神的な気づきを看護申し送りノートへ記録として残し、看護師勤務時に相談往診、受診を適切に受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会の頻度を多くし病院関係者との情報交換を常に実行している。また往診時には経過報告を確認し出来る限り、早期退院ができるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や状態が変わった場合、重度化したときにどう対応するか、管理者、看護師がご利用者、ご家族と話し合い、状況に応じては医師への相談もおこなっている。入居時ホームで終末期を迎えたいと希望されていてもその後状況が悪化した場合入院を希望される家族もおられ、繰り返し話し合いをし意思の確認をおこなっている。	約5年前にはホームで終末期ケアが行われた。終末期の指針を契約時にサブマネージャーが説明し、その時点での意向の確認も行っているが、家族の意思は揺らぐものであり、より一層の意思確認や不安を和らげられるように努めている。医師とは24時間体制で連絡が取れ、夜間も駆けつけて下さる。病状に応じて、入院手配も迅速に行われ、医師からの説明も行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルに基づき全職員の教育を実施しました、又応急手当について看護師より初期対応及び発生時にOJTとして訓練を行っているが、協力医療機関から感染症についての勉強会や研修会などは出来る限り一般職員も参加していただいている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災マニュアルがあり防火責任者を中心に避難訓練を実施している。新たにスプリンクラー、通報装置の教育も実施、日頃から火災・地震については職員間でも意識した会話をしている。協力体制は民生委員を經由している。	入居者と一緒に避難訓練をしている。運営推進会議では水害に備えて坂の上の公民館が避難場所に変更され、行政より地域の消防団も紹介して頂いた。ホームには1週間分の食料と数日分の飲料水が確保されている。救命訓練の成果もあり、管理者等が外出時に、他事業所の利用者の救命救急を行う事ができた。	
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理規定に基づき研修をおこなっており、「こころの抑制」をしないようにミーティングを通し話し合いをおこなっている。ご利用者のプライバシーを損ねるような声かけにも注意し、羞恥心にも配慮した対応をおこなうように心がけている。	職員全員がアセスメント時に、入居者個々の生活を大切に把握している姿を、管理者は高く評価している。日々の声かけ後に、ご本人の表情を見ながら反省する事もあり、自らの気づきに繋げている姿勢も見られている。“方言”の使い方にも配慮し、“ちょっと待って”を使う前にも、理由を先に伝えるようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に対して日頃のコミュニケーションを通じて本人のアルバムや趣味の話から発語される事が多くスタッフが何処に気づくかによるので「話した言葉通り」に日常的に記録を行いスタッフ間で共有に勤めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過したいか、ご本人のペース・暮らしぶりを把握して、入浴拒否等のときは本人の気持ちを確認し、無理強いはず希望にそって自由に横になっていただいたり、TVを見たり、それぞれ自由に過していただいている。		
41		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	入浴後に爪きりと髭剃りの施行を週2回のペースで実施、散髪については2ヶ月に1度福祉理美容サービスから出張にて実施している、1ヶ月に1回「おしやれ」の日と題して手浴をしてマニキュアをするなどで喜んでいただいております。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様によっては盛り付け、配膳等を職員と一緒に楽しくしていますが、全体をみると職員中心に準備が進められている。重度ご入居者が多い為できる限り食する時にBGMを流したり、会話をはさんだりの工夫をしている。	看護師であるサブマネージャーがカレー等を考えて献立を作り、旬の食材を使った愛情いっぱいの料理が作られている。クックチルドの利用も3分の1に減らし、入居者も一緒に下ごしらえ等を楽しまれている。食卓には入居者が散歩の時に摘まれた花が飾られ、行事の時には2段重箱に盛り付ける等、日々の食事を楽しんで頂いている。	入居者の方に下ごしらえをして頂いているが、調理等にもチャレンジしていきたいと考えている。食事中的音楽の選曲も更に工夫していくと共に、“自分の畑を作りたい”と言う方のために、個別のプランター作りを企画する等、更なる畑作りにも力を入れていく予定である。

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
43		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>カロリー等を考えながら献立を作成している、生活暦や残食の状況から好みのものを把握し月1回給食会議にて改善提案を行っている。摂取量に制限があるかたには容器の大きさを変え量を多く見せたり、嚥下咀嚼力に合わせたとろみ食や刻み食も個人に合わせて実施している。毎食後の食事量や水分量のチェックも個人別実施している。</p>		
44		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>自立口腔ケアの出来るご入居者は職員一人に対応し、介助の必要なご入居者は義歯の取り外し、清潔、ポリデントでの支援を実施している。さらに週1回の歯科往診時口腔体操と口腔内洗浄を実施している。</p>		
45	(19)	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターン把握のマニュアル化により、トイレ誘導を生活リハビリと考え全職員が共有の中実施している。</p>	<p>自立の可能性が高く、紙パンツを使用している方の排泄パターンも把握し、必要に応じてお昼間のトイレ誘導を行っている。排泄時は肌露出を最小限にし、昔話や家族の話題をしながら、羞恥心を取り除くように努めている。職員間の話し合いを繰り返す事でケアの統一ができ、紙パンツから布パンツに変更できた方もおられる。</p>	
46		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分チェック表にて水分不足のご入居者には24時間通して水分補強をして頂き、飲水拒否のご入居者にはお茶ゼリーを作り摂取していただき、繊維をたくさん取って頂くよう努めている。食事前の口腔ケア体操の実施やラジオ体操、散歩などで運動量を多くすることもおこなっている。</p>		
47	(20)	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>一人一人ゆっくりリラックスして入っていただく為に、週4回9名入浴を毎日5名入浴に変更する事で「ゆっくり出来気持ちいい」とお褒めの言葉を頂くようになりました。</p>	<p>入浴中は職員との会話を楽しまれており、湯船につかり「ここがよか〜」などの思いを語って下さっている。「別の方の入浴後は汚くて入れない」と言う方には、目の前でお湯の入れ替えをし、お風呂掃除をする事で気持ち良く入浴して頂けるようになった。月末には“お楽しみ入浴日”として入浴剤を入れ、柚子湯も楽しまれている。</p>	<p>現在は、入浴回数が週に2回と決められている。入居者個々の生活習慣や真の要望も把握しながら、希望に応じた入浴ができるための体制作りを検討していく予定である。清拭や陰部洗浄などの機会も増やし、感染予防にも努めていく予定である。</p>
48		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>ご本人のペースに合わせる事を一番にして、テレビを見るのが好きな方や、ホールを歩いたり、車椅子移動されたり、自由にしていただいている。特に就寝時間は定めてなく、本人本位で休んで頂いている。</p>		
49		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>看護師が一人一人の薬管理をしており、症状変化があるときは担当医との連携にて用途、容量のコントロールをしている。</p>		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週日曜日の午後からは気分転換等の支援として、外庭の散歩を実施している。気候が良くなると、町内の散歩をする支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週土曜日に自宅及びファミリーレストランにて昼食に同行していただいているご家族と毎週日曜日に宗像大社に同行されている2名のご家族には今後も継続にてお願いし介護計画と併用させていただいている。	天気の良い日には、庭に出て外気浴をしながら歌を唄ったり、おやつを食べている。季節の花見(コスモス・菊花展など)や初詣等にも出かけ、23年からは個別の外出にも力を入れている。買物と一緒にいき、その日の食材を購入する機会を作り、食材などを選んで頂いた。「パンが食べたい」との事でパン屋に出かけたり、絵画に興味がある方には美術絵画展にもお連れしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいと要望されるご入居者はおられるが、現状は施設管理でおこなっている。ご要望に応える為夏祭り企画では、施設内通貨を作り、出店でお買物をして頂く支援をしました。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、要望のある方には対応しているが、手紙のやり取りは出来てなく、ご家族からの手紙を読む事のみとなっている。レクリエーションの中に読み書きを取り入れ機能訓練としていて、作成物を貼付する事を年間行事の中に計画しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、ご家族が持って来ていただいた花を飾ったり、季節感を出すために手作りの貼り絵等シーズンを通じて飾っている。特に今年の正月は門松をつくり、大変喜ばれました。ホールにはソファを置き家族との団欒の空間となっている。	ホールには季節感を感じる事ができるように、春は桜の花や鯉のぼり、夏はすだれや風鈴、冬はクリスマス、正月はたこ、門松などがセンス良く飾られ、入居者との会話のきっかけにもなっている。ご本人の願いが書かれた紙も貼られ、家族等の来訪者にも見て頂いている。23年度、外壁がブロック壁からフェンスに変わった事で、「明るい雰囲気になった」と言う良い感想を頂いている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各リビングとホールの共有空間には、過去の行事の写真が貼られたり、アルバム、書籍を置いてあり、独りで来られても、自由に見たり、読んだり出来るようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が居心地良く過ごせるように事前に訪問した際にご家族とも話し合いをしている。新しいものではなく使い慣れた小家具や湯のみ、写真類などを持ち込んで頂きレイアウトもご家族・ご利用者と一緒に行っています。	各部屋の受け持ち担当の方が個性豊かに壁の飾り付けを行い、23年度にはMVP賞も決められた。ご本人も嬉しそうにご自分の写真や外出時の写真を眺めており、家族にも喜んで頂いている。家族の写真やアルバム、使い慣れたチェアやテーブル、湯のみセットなども持ち込まれ、安心して過ごせる空間を作り続けている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、リビングには大きく案内表示しており、自立に向けた環境にしている。食事時間の大型表示や、各入居者担当職員の顔写真入りのメッセージを居室扉へ表示し親近感を出しています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名: グループホームファミリー

作成日: 平成 24 年 5 月 31 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	42	現在、ご入居者の方に下ごしらえをして頂いている。今後、下ごしらえ以外に調理等にもチャレンジしていきたいと考えています。また「自分の畑を作りたい」というご入居者の方の為に、個別対応としてプランターでの野菜作りを支援していきたい。	個別のプランターにてプチトマト、ゴーヤなどの野菜作りを行い、収穫したものをご入居者の食材として使用する。収穫の楽しみをもって頂きたい	レクレーションの時間に野菜作りをご希望されている入居者の個別支援としてプランターによる野菜作りを一緒にする。5月に苗植えして8月に収穫で計画	3 ヶ月
2	47	現在、入浴は週2回実施。ご入居者個々の生活習慣や要望も把握しながら週3回の入浴が出来るよう体制作りを検討していく。入浴以外の方法として清拭や陰部洗浄などの機会も増やし清潔保持・感染予防にも努めていきたい。	毎月、月末の週にご入居者全員が週3回の入浴が実施できる	6月に入浴チームを結成。チームのスタッフが可能な限り入浴を担当し週3回の入浴が可能なか検証してみる。検証後、週3回の入浴が行えるよう体制作りを構築する。	6 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月